## 第２回（平成 20 年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

## ☆　農村環境保全向上の部

### (1) 審査経過

農村環境保全向上の部には、14 組織からの応募があり、いずれの組織も、地域における話し合いの下、農業者をはじめ、多様な主体の参画により、各々の特性を活かした活動を展開しており、意欲や熱意が伝わるものでありました。

審査委員会では、①体制の充実（多様な主体による協同体制、将来像の明確化、人材育成など）、②創意工夫と自立性（地域の特性を活かした工夫や自立に向けた意識醸成など）、③環境保全や農業振興への寄与（地域の環境保全や農業振興等へ効果を把握しながらの取組など）、④多面的効果の発信（環境教育や積極的な情報発信など）の四つの視点から審査を行いました。

まず、１次審査として、四つの視点を踏まえ、活動が優良と判定される組織を各審査委員が５程度選出し、この結果を基に意見交換を行い上位６組織を選出しました。

次に２次審査として、現地調査も加味した上で上位６組織の活動を採点し、この結果に基づく意見交換を行い、最終的な受賞候補組織を別紙のとおり決定しました。

### (2) 審査講評（受賞組織の概要）

**○ とちぎ元気大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）**

**逆面（さかづら） エコ・アグリの里**（宇都宮市）

水田生態系の頂点に位置すると言われる「フクロウ」に着目し、これを環境向上のシンボルとしながら将来のあるべき姿を明確化させ、様々な保全活動を実践しています。

減農薬・減化学肥料による環境に配慮した農業生産の取組にあたっても、地域ブランド（フクロウ米の商標登録）の確立をめざすなど、先進的な取組を展開しています。

また、ＮＰＯ法人や大学との連携により、多くの都市住民の参画や生きもの調査の充実化を図るとともに、学校教育との連携や看板・広報紙による情報発信など、グレードの高い総合的な取組が評価されました。

看板とロゴマーク

**○ とちぎ元気賞（栃木県知事賞）**

**三区町環境保全隊**（那須塩原市）

混住化が進行する中、新住民の多くの参画を得て、生態系はもとより、景観向上や水　質保全など、幅広い活動を実践しています。

また、那須疎水をはじめとする農業用水路の歴史や役割の理解促進に資する交流会や学校教育との連携に取り組むとともに、看板や広報誌の定期的な発行など、広く情報発信や環境に配慮した先進的な農業生産に精力的に取り組んでいる点が評価されました。

様々な交流活動

○ **とちぎ元気賞（栃木県知事賞）**

**和田用水ホタルの里の会**（鹿沼市）

中山間地域の条件の中、「ホタルの保全活動を通して、人と自然の共生を考える」をテーマに、都市住民も含めた保全活動に積極的に取り組んでいます。

また、生きもの観察会や遊休農地を活用した景観向上や農業体験など、工夫を凝らした都市農村交流活動を通して、経年的に参加者も増加しており、農地･水･環境保全向上対策の導入により、更なるグレードアップに期待が持てる水路保全活動と点が評価されました。

植栽地における交流

○ **特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）**

**大桶（おおけ）地域みどり保全会**（那須烏山市）

取組にあたっての目標を明確化させ、生け垣コンクールやマンサク街道･椿街道づくりなど、景観向上に向けた独創的な活動を実践するとともに、古墳群が多い特性を考慮した古代米栽培による小中学生の農業体験の取組、さらには集落営農活動との連携など、地域の自立化に向けた取組が評価されました。

どろんこ田んぼの稲刈り体験

○ **特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）**

**芳志戸（ほうしと）環境向上推進会議**（芳賀町）

約 340ha の共同活動、213ha の先進的な農業生産活動など、県内有数の大規模な区域にあって、組織内に環境維持、施設管理、環境向上、農業の四部会を立ち上げ、体制を充実させるとともに、花壇コンクールなど、工夫を凝らした効果的な活動に取り組んでいる点が評価されました。

カバープランツと花壇コンクール

○ **特別賞（下野新聞社長賞）**

**山越ふれあいの里づくり協議会**（佐野市）

地域住民やボランティアによる直営施工で整備した「ため池」の環境向上活動を発展させ、住民はもとより、地域内の企業も参画した協働の活動を展開するとともに、毎月の広報誌作成など、元気な地域づくりに向けた意欲的な取組が評価されました。

直営施工・収穫祭の様子